

名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科 術後の会 会報

ハート通信

Nagoya Heart Center

第12号 

2005年

第12号の紙面

- 院長 大橋壯樹よりご挨拶・・・・・・・・・・ 1
- 第5 会術後の会報告・・・・・・・・・・ 2
- 心臓血管病予防のポイント・・・・・・・・・・ 3
- 術後体験談・・・・・・・・・・ 4、5
- 新任医師の紹介・・・・・・・・・・ 6、7
- お便りのご紹介・・・・・・・・・・ 8

編集・発行 毎年 春・秋 発行

名古屋徳洲会総合病院 地域医療部

〒487-0013 春日井市高蔵寺町 2-28-1

Tel : 0568-51-8711

皆様、冷たい冬も終わりに近づき、そろそろ桜の季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？昨年は新企画で術後の会を日帰りの温泉旅行にさせていただき、皆さん元気にかつ無事に術後の会を楽しく過ごしていただきました。

手術を克服してますますお元気になっていただけるために、ハート通信、術後の会を今後も続けていきますので、皆様のご意見、ご要望、その他なんでも遠慮なくご連絡ください。

さて、当院心臓外科もスタッフがますます充実してまいりました。現在私を含めて7名で、大阪の松原徳洲会病院でも手術を受け持っています。これからも手術した後もいつまでもお元



気で生活、社会に復帰していただけることをいつも念頭に置き患者様に接していきたいと思っております。当院 HP でも術後の会、心臓血管病を理解しよう等のコーナーを設けていますので是非ご覧ください。

術後の会で最近お亡くなりになった安江様から親切なお手紙をいただきました。ご家族のお許しを得て、掲載させていただきました。解離性大動脈瘤破裂で中津川から救急搬送され夜中に手術をいたしました。手術後出血が止まらず長時間手術室で奮闘したあとも、術後に再度出血してICUで再手術をした患者様でした。何とか頑張って欲しいと坂本医師と一緒に経過を見守り続けたのを昨日のように思い出します。ご高齢で大手術にもかかわらず、お元気に回復し、あっという間に退院され、また術後の会にも必ず出席していただきました。安江様の元気な笑顔を見るたびに、「外科医は最後まであきらめてはいけけないのだ！」といつも思い知らされました。

心臓手術を通じて私どもは、多くの患者様から学び感じる事がよくあります。大手術にもかかわらず、寡黙でいつもニコニコとされた安江様をみるたびに、その秘めた強靱な体力と精神力に驚き、どんなものすごい人生を歩んで来られたのだろうと、畏敬の念を感じずにはいられませんでした。

安江様のご冥福をお祈りすると同時に、術後の会の皆様が健康ですばらしい人生を楽しんでいただけることを心より願っています。

院長 大橋壯樹



秋の晴天に恵まれた 2004 年 10 月 23 日 (土)、心臓血管外科『第 5 回術後の会』を開催いたしました。

『第五回
心臓血管外科術後の会』報告

日頃、外来でお会いする患者様から遠くは長崎県の方まで総勢 144 名が一同に会して楽しい 1 日を過ごすことができました

今回は趣向を変え、バス 3 台で南木曾温泉 (岐阜県) への小旅行を企画いたしました。会場となったホテル木曾路では、ゆっくりお風呂に入り、多治見市より参加して下さった橋口順子さまの乾杯の挨拶で会はスタートしました。院長 大橋壯樹と MSW 谷合麻理子による医療講演の後、術後の会を代表して松原光男さまが「術後のいきいきライフ」と題し、ご自分の体験談を披露して下さり、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、心臓血管外科部長 朝倉貞二による挨拶で、「20 歳の時の体重を維持しよう！」の掛け声のもと会はお開きとなりました。次回もまた笑顔でお会いできることをスタッフ一同心より願っております。

心臓血管病の予防のポイント

ストレスの無い生活

動脈硬化のリスクファクターの一つにストレスがあります。
 ストレスの少ない生活をおくるのも動脈硬化の予防につながります。以下の生活をお勧めします。

- ◎ ストレスに気づく ◎ 睡眠 ◎ 入浴 ◎ 旅行 ◎ 趣味
- ◎ 憩いの場を作ろう ◎ 楽しく無理のない社会参加 ◎ 趣味を見つけよう
- ◎ 楽しみや生きがいを見つけよう
- ◎ 新しい趣味、学習、スポーツ、会に挑戦する

動脈硬化の予防には人一倍頑張っているのに・・・

生活習慣や食事には人一倍気を使っているのに、心臓血管病になってしまった。
 このような話はよくあります。動脈硬化にはもちろん体質もあります。また、きちんと生活食事をおこなってもなんらかの落とし穴があったり、解明できない原因もあります。

神経質になりすぎるのもストレスとなり動脈硬化を起こすとも言われています。
 生活習慣も厳格にする必要はありません。食事制限等も極端に行うのはむしろ危険です。また、特別な健康食品にばかりに頼るのも意味がありません。

神経質にならずに無理せずに生活を送るのも一つです。

これだけは守って！

糖尿病、高血圧、高脂血症に気をつける。

禁煙。

暴飲暴食はやめる。

体重増加に気をつける。

1日最低30分の軽い運動、歩行を行なう。

楽しくストレスのない生活を。

術後体験記

心

臓については以前、狭心症の冠動脈のカテーテル拡張術治療で10年近く何の心配も無く生活してきました。忘れかけた頃になって、軽い狭心症の胸痛があり、検査の結果、冠動脈に狭窄部がありバイパス術しかないと言われ、半年間悩みました。

開胸して心臓血管にメスが入ると聞くだけで気が引けます。毎日心臓に心配を抱え憂鬱な気持ちで家族や回りの人にいやな思いをさせながら生活を送るより、いっそのこと手術をして明るい生活にした方が良くと考え方を変えて、かかりつけの先生とも相談しました。名古屋徳洲会総合病院での大手術（冠動脈バイパス手術）は成功に終り、経過もよく3週間で退院することができました。

退院後、声が少しかすれたのも良くなり、狭心症特有の胸痛も全くなくなりました。先生方はじめ、サポートして下さった多くの看護師の方々に感謝しております。声がかすれて先生方に自分の意思が伝えづらく感情的になっていたことを反省しています。

今回の経験で今思うことは、現代医学と先生方の技術はもちろん、その使命感に助けられ神様に助けられたことに感謝しなければならないと思っています。また長時間の手術も耐えた自分自身の生命力もほめてやりたいと思っています。

これからは趣味をエンジョイして小さなボランティアなど前向きな気持ちで生活を送っていきたいと思います。

(匿名希望・66歳・男性)

名

古屋徳洲会総合病院で手術を受けて、1ヶ月。今思うと、定年退職後、健康保持と趣味とで6月～11月は登山、12月～5月は山岳スキーに、月1～2回のスペースで出かけていました。年1度の健康診断で胸部大動脈瘤が発覚し、すでに径4.5cmあり、しかも2個もありました。何も知らずに登山など行っていたら破裂して山で命を落としていたかも?! 当時は手術が怖くて血圧をおさえて様子を見るということで5年経過しました。また年に1度の定期健康診断で破裂寸前の大きくなっている動脈瘤が見つかりました。

私の受けた手術は胸部下行大動脈瘤、開胸人工血管置換術といえます。手術中のことは何もわかりませんでした。もとの身体に戻ることができました。2週間あまりの入院後、自宅療養に入って約1ヶ月、リハビリテーション科の桜井さんから教わった胸部のリハビリや呼吸法の実践、退院時にいただいた「手術後の過ごし方」とにらめっここの生活を続けております。1日も早い快復を願って頑張ります。

今回の手術での教訓は、いくら健康な身体であっても、定期的な健康診断をきちんと受けることです。自覚症状がまったくなくても、病気が進行している場合もあります。今後も、自分自身のために、家族のために健康でありたいと思っています。(匿名希望・男性)



私

は、冠動脈心臓バイパス手術を受ける事が出来、集中治療室にて23日間手厚い看護・治療を受けて4階南病棟に移り退院す

るまで4ヶ月の長きにわたり入院しておりました。早い人で2週間から4週間で退院されるのに、私はICUだけで3週間余りお世話になりました。考えを変えればそれだけ他の人より重病だったかもしれません。

無事退院してから後、ハート通信で術後の生活例ならびに質問集を参考に生活しております。薬について言えば「パップファン」はバイパスの血管が閉塞しないためと血栓をおさえるためとして私は一生のみ続けなければならないと思っております。ニトロールは冠動脈を拡張する作用のため、これも糖尿病・高血圧・高コレステロールの予防薬、これらも飲み続けなければならないでしょう。ラシックスの利尿剤は体内に水分がたまり、心肺に負担がかかるのを防ぐために3ヶ月ほど服用とありますが私は入院しておりましたからクリヤしていると考えております。

肩がだるい・傷口の痛み・声が出ないのは月日が経てばいずれ回復するものと思っております。自動車運転・旅行・温泉などは術後4ヶ月を経ているれば始めたいと思っております。それから食事療法と適度の運動については病気の根源である糖尿病の予防のためにも是非とも続けていきます。たとえ僅かなパーセントであっても再発の可能性がある限り、これからも定期的に外来診療・検査を受け再発防止に努めます。

(小牧市在住・73歳・男性)

昭

和4年生まれの私が今迄入院の経験もなく、健康が取り柄と自負しておりました。ある日、午前9時半過ぎにスーパーに出かけ店内に入った途端、胸がしめつけられ、息苦しく意識がもうろうとなってしまうました。警備員の方が我家に連絡、救急車到着し中津川市民病院へ運ばれ、直ちにCT検査をして頂いた所、早速手術を受けなければ危ないと伝えられ、直ちに名古屋徳洲会総合病院に転送され手術を受けることになりました。

約5時間ので終わり、記憶が戻ったのは翌朝だったと思います。のどの渇きと咳が出て胸の痛みを感じない程度で我慢出来ない様な事はありませんでした。

退院後2ヶ月は、月2回、その後は月1回の外来診察を受けております。現在は週1回のコーラスを楽しみ、週3回3時間健美操をしております。お陰様で体調もよいです。

やはり、人生健康第一です。どんなに元気で健康な人でも年をとれば身体のどこかが言う事を聞かなくなるものです。

今後は1日1日を大切に生きて行こうと思っております。

(恵那市在住・75歳・男性)

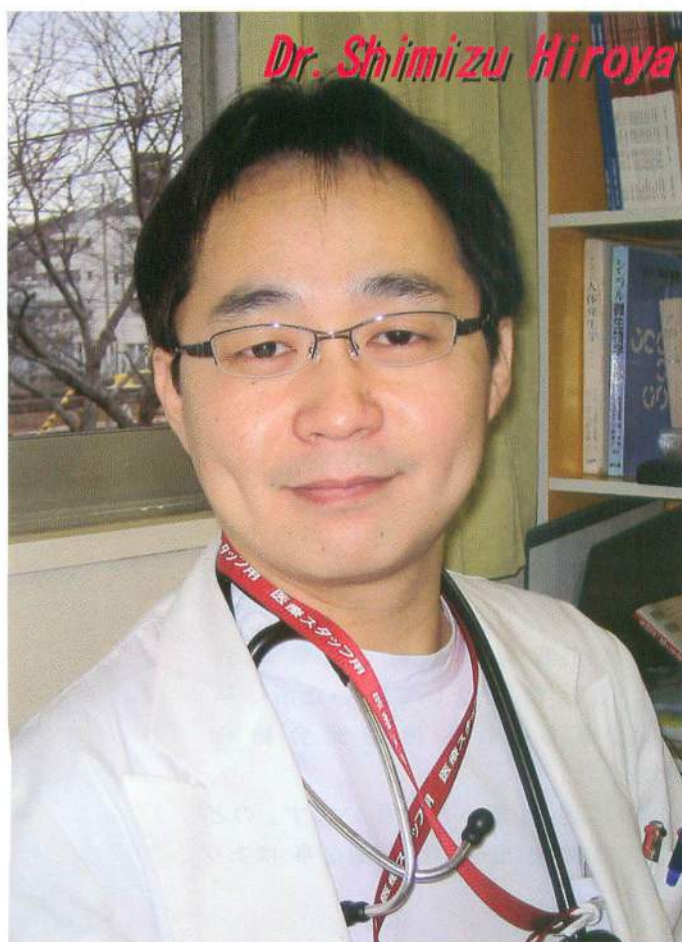


新任ドクター紹介



こんにちは。本年 1 月 1 日より心臓血管手術の勉強、習得と心臓血管外科専門医取得の為、心臓血管外科に参りました、清水宏哉（しみず ひろや）です。私はお正月よりお仕事をしておりますが、これまでの感想を皆様にお話したいと思います。

まず、非常に忙しい地域の基幹施設であると思います。心臓血管疾患については、ほぼ毎日手術があり、心臓カテーテル治療も毎日行われております。ここまでアグレッシブに頑張っていることに驚きました。



心臓血管外科のメンバーは、外科、内科、コメディカルスタッフ全てがほれほれするような働き者揃いです。「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」という理念を合言葉に、「医療とはどうあるべきか」を常に模索しながら、日々ベストを尽くしております。何とスタッフは、大阪松原徳洲会病院ハートセンターも兼任し、手術件数の総数は、年間約 400 件になります。そんな超多忙な毎日の中、皆「爽やかな笑顔と挨拶」をかかしません。私はとても癒されます。スタッフメンバー全てが心身ともに健康で、自己管理が上手なのだと思います。これからお世話になる私はとても幸運です。

心臓や血管の病気でお悩みの皆様、是非私達に御相談下さい。宜しくお願い致します。

清水宏哉

出身大学：

札幌医科大学（平成 6 年卒）

認定医：

日本外科学会認定医

職歴：

平成 6 年大阪大学附属病院第一外科

平成 13 年八尾徳洲会総合病院外科

平成 15 年同チーフレジデント

新任ドクター紹介

**Dr. Oka Fujihiro****岡 藤博**

地域の皆様、医療関係の皆様、この1月より当院に赴任しました、岡 藤博(おか ふじひろ)です。
昨年12月にこちらの心臓血管外科を見学する機会があって、大橋院長はじめスタッフの方々の手術の技術の高さ、診療姿勢の素晴らしさに感銘を受け、決まっていた海外赴任をキャンセルし、こちらで働くことになりました。

最近、心臓血管外科では医療事故等いろいろな問題が報じられています。当院は昨年、年間313例と数多くの手術を行っていますが、その様な事故はなく安全に行っております。また他の医療機関からの227人(73%)の御紹介を頂いており信頼度の高さを物語っていると思います。このような優れた実績のある病院で診療が出来る事は、私自身大変幸せと思っております。

全ての患者様に診てもらって良かったと言って頂ける様に、また周辺の医療機関の先生方には紹介して良かったと言って頂ける様全力を尽くす所存です。何卒宜しくお願い致します。

出身大学:秋田大学(平成9年卒)

職 歴:平成9年 京都大学心臓血管外科
平成10年 あかね会土谷総合病院心臓血管外科
平成13年 市立長浜病院心臓血管外科
平成16年 岸和田徳洲会病院心臓血管外科





春を迎え、みなさま心新たに元気でご活躍のことと思います。

昨年の南木曾での「術後の会」ありがとうございました。大橋先生を“命の恩人”と慕い続けていた父も昨年12月13日に「間質性肺炎」で85歳で亡くなりました。大橋先生には手術後もご尽力いただき、おかげ様で、3年7ヶ月間も元気で過ごせた事、本人はもとより私達も感謝にたえません。父も年に1度の「術後の会」に出席することを楽しみにしておりました。

南木曾への術後の会が最後となりましたが、大橋先生のほうから声をかけられたと聞きました。実は、あの頃から体調がおもわしくなかった様でした。咳き込んだり、顔色も少し悪く、足にむくみもできていたようです。自分の身体は本人が1番わかっていたかもしれませんが、大橋先生に逢いたかったのでしょう。大橋先生の医療講演の時は、お料理も食べずじっと聞いていたと一緒に付き添いで参加した孫娘が話してくれました。

12月7日に入院し、苦しい息出しでしたが、最後までぼけることなく気丈にふるまう父に、私も後悔のないように看病いたしました。8日の朝、人工呼吸器をつけ何もしゃべること無く、眠るだけで13日心臓が止まった形で呼吸器を外した父は、やっと安らかな寝顔になった気がしました。

4年余りでしたが、充実した生活を送ってまいりました。大橋先生と出会えた事を本当に心より喜んでおりました。

スタッフの皆様、これからもお体に十分気をつけて、ますますご活躍を心よりお祈り申し上げます。術後の会の出席もこれが最後だと思うと淋しい気がしますが、かげながらご活躍を応援しています。 草々。

安江勝子（故 覚一娘より）

お便りのご紹介